

日々剣道具と向き合う

研ぎ澄まされた感性を纏う道具との対話。

用と美

全日本武道具協同組合

剣道指導の心構え（竹刀の本意）より

「剣道は、竹刀による『心気力一致』を目指し、自己を創造していく道である。」

『竹刀という剣』は、相手に向ける剣であると同時に自分に向けられた剣でもある。

この修練を通じて竹刀と心身の一体化を図ることを指導の要点とする」。

全日本剣道連盟

竹刀事故を予防する

7つのポイント

1. 「竹刀の全剣連規格

（長さ、重さ、太さなど）「遵守！」

重さが軽くなっている竹刀は、乾燥や竹の損耗が考えられます。非常に危険です。

また、重量及び竹刀の先端径が規制値をクリアーしているからと言って、竹刀の他の部分を極端に削り落とししたり、竹刀4枚の合わせに手を加えて、元の形状を損するような事は、それだけで危険性が伴いますので、絶対に行わないで下さい。

2. 竹刀の点検は、使用前、使用中、

使用後とも頻繁に！

相手に危険が及びますので、ちくとうの破損・ささくれ、付属品の破損・緩み、中結の位置（全長の約1/4）などの徹底した点検を頻繁に行う必要があります。

※点検後、先生や剣道仲間等の方々に再点検して頂くことをお勧めします。

竹

中結

先芯

先革

柄革

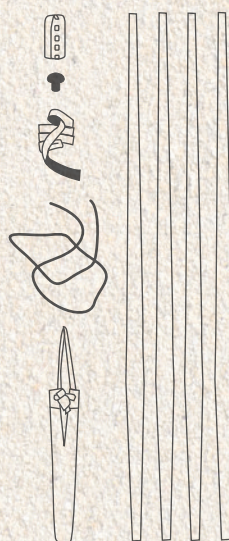
弦

3. 点検は付属品を解いて、

内側まで念入りに！

竹だけに分解して、ちくとうの内側の割れや虫食いなどをしっかりと確認します。

ヒビや割れが入っていないか、目視と指先の感覚で、じっくりと確認して下さい。



4. 小さなササクレは完璧に除去！

ササクレは放置すると非常に危険です。小さなササクレは大きくなります。

突き刺さったり、ひっかかったり、飛び散ったりして、事故につながります。

使用者の責任において、竹刀メンテナンス用具（やすり等）でしっかりと手入します。先革に向かって、竹の繊維と平行に押しがけします。仕上げにペーパーで磨き上げます。

押しがけ

